



緑内障について

緑内障患者数は岐阜県多治見市で行われた大規模調査から日本人では40歳以上で約5%に存在することがわかりました。5%というと、一クラスで1人から2人いる割合ですので、比較的多い疾患になります。緑内障の問題点は、自覚症状が出現するのに時間がかかることと、自覚症状が出るころにはかなり病気が進行してしまっていることです。白内障と異なり、緑内障は手術で完治させることができない疾患です。**進行を止めることはできても、もとに戻す治療はまだ開発されていません。**

早期発見と緑内障

進行するまで自覚症状がなく、進行しても元に戻す方法がないとなると緑内障は厄介な病気です。現時点で、できることと言えば、早期に発見して、治療を開始していくことで、進行を遅らせることです。**早期発見**が、緑内障治療で最も**効果的な治療法**になります。

視野検査

緑内障が進行すると視神経がダメージを受けて変性・萎縮して本来の機能を失っていきます。その結果として、視野障害が起こってきます。緑内障は視野が狭くなっていき見えなくなる病気ですので、一番重要なのは**視野の状態をしっかりと把握すること**です。現在の視野がどのようになっているのか。過去と比較して、今後どのようになっていることが予想されるのか。その場合に現在の治療で十分なのか。そういったことを検討するために視野検査はとても重要な役割を果たします。

眼圧を気にされる方が多いですが、それ以上に視野の結果もしっかりと見ないといけません。眼圧がよくて喜んでいても視野が悪くなっているのでは本末転倒です。当院では、なるべく皆さまに理解いただけるように、**視野の結果を見える化して、わかりやすい形で説明**できるように準備しております。

視野検査の目安は通常半年になりますが、病状に合わせて行うタイミングを調整します。